

## 「つながっている」ためのコミュニケーションメディア

亀井 剛次 (kamei@cslab.kecl.ntt.co.jp)

日本電信電話株式会社 NTT コミュニケーション科学基礎研究所

### 「関係性指向」のコミュニケーション

我々が行なうコミュニケーションには二つの側面がある。一つには内容を正確・迅速に伝える側面であり、もう一つにはコミュニケーションを通して他者との間に「つながっている」という感覚を持てるという側面である。大黒[1]では前者のモードを「内容指向」のコミュニケーション、後者を「関係性指向」のコミュニケーションと呼び、前者を補完するものとして後者を位置付けている。

以下に紹介する「ひとのあかり」と FaintPop は関係性指向のコミュニケーションに特化したメディアであり、また、これらのデザインを通して関係性指向のコミュニケーションとメディアのあり方をあぶり出そうとするものである。メディアのデザインにあたっては、利用者とメディアの間のインタラクション、もしくはメディアを介した利用者間のインタラクションのありかたに注目した情報デザインを心がけ、以下の点を意識した。

Lightweight Media: 軽やかに、直感的に。

- 日常生活の中にとけこめるメディア
- シンプルでバリアの低いインタフェース

Awareness of Connectedness: つながっている感覚。

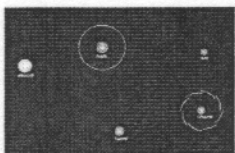
- 言葉にするまでもない「ちょっとした思い」。
- 邪魔にならない程度に感じ続ける存在感。
- コミュニケーションの履歴に対する直感的な概観。

### ひとのあかり: つながっているためのメディア

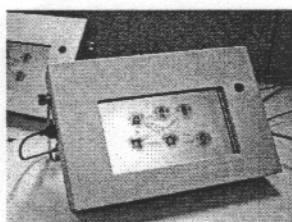
「ひとのあかり」[2]は、窓から見える家々の明かりになぞらえたインタフェースを通して、親しい人々の間で互いの状態を伝え合うためのメディアである。画面上の明かりの一つ一つがコミュニケーション相手に対応しており、相手の状態に応じて異なる色と頻度・周期で瞬いている。

デザイン上の留意点の一つは、このメディアが相手の状態の「取得」を目的とする監視(見守り)アプリケーションではなく、「伝え合う」ことを意識したコミュニケーションメディアである点にある。その点をふまえ、自身の状態を伝えようとする、相手の状態を知ろうとすることに対して、利用者によるアクションを要求している。

メディア上でのインタラクションは、自身の状態を「色」で表現したメッセージを相手に向けて意識的に送信することから始まり、相手の状態がそのメッセージへの(自動的かつ設定可能な)反応として返送される“ping”風の情報交換としてデザインしている。



ひとのあかり



FaintPop

### FaintPop: 集団でのつながっている感覚

FaintPop[1]は「仲間たちとの写真を収めたフォトフレーム」をイメージしたメディアである。集団を単位とし、その中での「つながっている感覚」を共有することを狙っている。同じ写真を持つ仲間たちとのつながりを、その写真が媒介する。

フレーム内には仲間たちの顔写真が泡のごとく浮かんでおり、その顔に触れることで相手へのメッセージが送出され、画面上では両者の間を球が飛んでゆくアニメーションで表現される。触れ方によりポジティブ・ネガティブ・ニュートラルの3種類のメッセージがあり、それぞれに異なる色・音で表現される。画面の背景にはアニメーションの軌跡がしばらくの間残り、コミュニケーションの履歴の概観を与える。

FaintPopでは関係者すべてのフレーム上に同じ情報が表現されており、メッセージ交換は純粋な個人間ではなく、「集団の場における個人」を相手に行われることになる。

### 関連研究: 「つながり感通信」

伊藤らの「つながり感通信」[3]は、離れて暮らす人々の間に安心感やつながっている感覚を提供することを狙ったものである。「つながり感通信」では、無意識のうちにセンシングされる手がかり情報を常時送受信しあうことを通して利用者の間に「つながっている感覚」が醸成されるのではないかと仮説を提示し、いくつかのメディアの実現と実証実験を通して確認している。

その一例であるFamilyPlanterは、家庭の居間に置かれるような観葉植物を模したデザインを持つメディアであり、その場での人の存在・活動情報をセンスして送出するとともに、離れた相手の存在や活動の情報を筐体の回転やLEDの点滅により表現する。これらのメディアが交換する情報は生活活動情報プラットフォーム(AIP)[4]を介して蓄積・交換される。

現在、「関係性指向」メディアの実装に用いたパーソナルエージェントプラットフォームと上記AIPとの間でメッセージ交換・変換の枠組みが実装され、「ひとのあかり」とFamilyPlanterの間での相互通信が実現されている[5]。

### 参考文献

- [1] 大黒毅, 亀井剛次, 桑原和宏: FaintPop: グループにおける関係性指向のコミュニケーションのためのメディア, インタラクション 2002 インタラクティブ発表 (2002)
- [2] Ohguro, T.: Towards Agents which are Suggestive of "Awareness of Connectedness," 信学論 E84-D-8, pp. 957-967 (2001)
- [3] Itoh, Y., Miyajima, A. and Watanabe T.: 'Tsunagari' Communication: Fostering a Feeling of Connection between Family Members, Proc. ACM CHI2002, pp.810-811 (2002)
- [4] 木村永寿, 前田裕二, 渡邊琢美: AIP: 生活・活動情報プラットフォームの提案, 信学総大 A-14-1 (2002)
- [5] 亀井剛次, 桑原和宏, 木村永寿, 伊藤良浩: パーソナル・エージェントによるコミュニケーションメディア間の相互接続, FIT2002 OE2-2 (2002, to appear)